一般質問

議長及び監査委員は、その職務の性質上、一般質問を行っていません。

●二次元コード　市議会ホームページ上の各議員の質問動画へアクセスできます。
●マーカー部分　用語解説や写真・イラストを掲載しています。

地域内交通パイロット事業　地域住民や団体等が主体となり、既存の公共交通を補完する地域内交通を導入するためのしくみの新設に向け、課題や効果等について実証運行を通じて検証する事業。

ペットと過ごせる専用避難所
安心して共に避難するために



中山　ひと美（たちかわ自由民主党 参政党）

問　市の地域防災計画では、避難所へペットを連れた同行避難が認められています。同行避難とは、ペットは飼い主と同じ避難所内の屋外や校庭などの指定された場所にまとまって別置されることです。昨今の猛暑や豪雨などの天候に耐えられるのかと課題に感じます。ペットを飼っている方、いない方、アレルギーのある方、ない方など、皆さんで話し合って、飼い主がペットと同じスペースで過ごせる、専用の避難所の設置を考えてはいかがでしょうか。

答　ペットを連れた避難については地震の際の一次避難所に同行避難することを認めており、避難所運営マニュアルには避難者の避難スペースのほか、ペット収容場所を記載しています。これまでは校庭などを想定していましたが、過酷な環境も想定されるため、教育部局と連携・協議を図りながら検討を進めています。今後、先行自治体の運用方法や課題について情報収集を行うとともに、本市における対応を前向きに検討していきたいと考えます。

一般質問項目　①ペットの防災対策について　②教育行政について　③まちづくりについて

市内小中学校での避難訓練
想定外を想定した訓練実施を



頭山　太郎（自民党安進会・維新の会）

問　本年６月19日に北区の区立小学校で火災が発生しました。火災時を想定した避難訓練というと家庭科室等の火を扱う場所を火元として考えますが、今回は音楽室という想定外の場所でした。しかし、当市の七中体育館での漏電を原因とした火災のように、どこからでも出火する可能性は否定できません。市内の学校での災害時の避難訓練の状況は、想定外を想定した訓練が行われているのでしょうか。最近見直しを行った点等ありましたらお示しください。

答　市立小中学校では、毎月１回避難訓練を実施しています。地震、火災、地震と火災の同時発生、不審者対応など、各学校が状況に応じて計画的に実施しています。火災を想定した訓練では様々な事態、出火場所を設定し、避難する訓練を行っています。教育委員会では北区の火災事故を受け、改めて市立小中学校全校に防火管理体制の確認や、火器及び電気設備の安全管理の徹底、消防用設備の点検などを指示し、各校において適切に対応しています。

一般質問項目　①柴崎町の課題について　②子どものSNS利用について　③学校の危機管理について

デジタル教育を取り巻く環境
海外の動きを受け止め再検討を



あべ　みさ（立憲ネット緑たちかわ）

問　AIなどデジタルを活用した学習は、特別支援教育や日本語支援を必要とする子どもたちの教育では有効だと考えますが、他方で悪影響を懸念する声もあります。海外では教育にデジタルを使わない方向に見直しが進んでおり、対人学習を重視する考え方に転じています。ノルウェーでは、スクリーンタイムの急増が学習成果や意欲の低下、いじめや不登校の増加を引き起こす一因と言われています。デジタル教育に対する市の見解と実態をお示しください。

答　海外において紙教材へ回帰する動向があることは報道等で承知をしており、国においても議論されていることは把握しています。市ではデジタル教育を単に目的化するのではなく、１つの手段と捉え、利用時間や姿勢等、健康面への配慮を徹底しています。その上でICTの効果的な活用による教育活動を推進していきます。また、立川市ICT教育推進検討委員会を通じて各学校からの要望や、課題、問題を把握しており、適宜対応しているところです。

一般質問項目　①子どもの権利を保障する包括的性教育をすべての子どもに！　②誰もが安心して移動できるまちづくりを！　③デジタル教育の推進を検証し、子どもの育ちへ最善を！

地域内交通パイロット事業
砂川・上砂モデルの対象拡大を



中井　あきこ（公明党）

問　砂川町の交通空白地域においては、新たな移動手段の確保が重要な課題となっています。地域内交通パイロット事業では、砂川・上砂モデルとして令和９年度後半より検討を開始するとあります。幸町や柏町等平成新道沿いの住民の方からも、バス停やモノレールの駅へのアクセスについて不便を感じる声が寄せられています。地理的にも隣接し、公共交通に関する課題も共通するこれらの交通空白地域についても一体的な検討対象として考えられませんか。

答　地域内交通については、地域住民、団体等が主体性を持って取り組むことが必要で、候補エリアも地域住民との検討の中で決定すべきと考えます。砂川・上砂モデルでも、平成新道沿いのエリアを含めることが実証運行に有効となった際には、検討の中に含まれると考えます。一方で、実証運行に提供可能な便数には限りがあり、需要規模が多くない限り広範囲での実証運行エリアを形成することは、サービス水準の低下を招き、課題があると認識しています。

一般質問項目　①市民の移動手段の確保と、10年後を見据えた公共交通について　②誰もが安心して出かけたくなるまちづくりについて　③投票環境の充実について

過去の経験を超える災害
課題や教訓を反映し備え強化を



わたなべ　忠司（立憲ネット緑たちかわ）

問　８月９日の大雨では市内にレベル３大雨警報が発表され、栄町の一部で浸水が発生しました。今後も短時間に局地的な大雨が降るケースは十分に想定されます。これまでが大丈夫だったから、という考え方ではなく、原因を検証し、次に備えて具体的な改善につなげていくことが必要です。今回浸水や道路冠水が確認された箇所について、排水能力等を改めて検証し、改善を図る考えがあるのか、どのような優先順位で対策を進めるのかお聞かせください。

答　８月９日の大雨で道路冠水が確認された箇所については、パトロールや点検を実施し、ゴミや土砂の除去を行っています。また道路排水用の貯留浸透施設を設置している箇所については、専門業者による点検を行うとともに、必要に応じて施設清掃を行い、機能保全に向け取り組みたいと考えます。現在策定中の立川市雨水管理総合計画において、浸水リスクや都市機能集積度を評価し、優先的に実施すべき地区を選定し、実施可能な対策を進めていきます。

一般質問項目　①想定を超える災害に備える本市の防災力強化について　②子どもの育ちと安心を支える環境づくりについて

交通弱者の移動手段
誰一人取り残さない到達点とは



永元　香子（日本共産党立川市議団）

問　私の地元の若葉町でも、地域公共交通についてさまざまな意見が挙げられています。住民が高齢になり、単身者や夫婦とも高齢の場合、町内のちょっとした距離でも移動がままならないと聞いています。誰一人取り残さないことをモットーに市政は動いていると思いますが、立川市地域公共交通計画に、地域内の身近な移動を支える地域内交通導入支援制度の新設、とあります。この事業における市の目指す到達点について、お聞かせください。

答　市では令和７年度に立川市地域公共交通計画を策定し、持続可能な公共交通ネットワークの構築を図ることを目的としています。公共交通を基幹交通・幹・枝葉の３つに分類した場合、地域内交通は、広域都市間を結ぶ基幹交通と、近隣都市間等への移動を支える幹を補完する構造の枝葉として位置付けられており、地域内の日常生活施設等への移動を支える役割を担うことで、計画の将来像を実現することが、最終到達点であると考えています。

一般質問項目　①基地問題について　②若葉町・栄町の地域公共交通について　③学童保育所・放課後子ども教室『くるプレ』について　④補聴器購入補助制度について